

久米博先生とリクール

清 水 多 吉

今から八年ほど前、サルトル以後の現代フランス哲学、なかんずく構造主義の研究者田島節夫先生を定年でお送りした後、現象学の新展開派に属するP・リクールの研究者久米博先生をお迎えすることになった。田島―久米両先生の学殖によって、わが立正大学哲学科は、こと現代フランス哲学については日本最高の逸材を擁する学科になったと思う。

さて、久米先生はストラスブール大学に留学され、そこで宗教学博士号を取得されている。一九六七年のことであつたという。ストラスブール大学といえば、かつてレヴィナスやブランショも学び、リクールも教壇に立ったことのある大学であり、フランスのエルサレムといわれるほど優れたユダヤ人学者を輩出した有名大学である。そののみならず、あの大学はドイツ領にも近く、ハイデッガーのいたフライブルクまでは確か数十キロぐらいの距離であり、フランス、ドイツの両哲学を学ぶのに絶好の場所である。久米先生がこのストラスブール大学に留学された頃は、リクールはパリ大学に移った後のはずである。だが、久米先生は何故かこの大学でリクールの哲学に出会うことになる。

久米先生には現代フランス哲学について多くの著作がある。しかし、何といってもリクールの研究が偉出している。二〇〇〇年秋、リクールが京都賞を受賞した際の総合司会を久米先生が引き受けられた。一般観客席にいた私として

は、リクール、久米両先生に多くのことを質問したかったのだが、その機会をえられなかった。例えば、ドイツ現象学派や解釈学派には「倫理性」などほとんどないのだが、何故かフランス新現象学派には「倫理性」が色濃くにじみ出ている。何故なのかといった問いが、私の常日頃抱いていた疑問であった。幸い、久米先生にはご退職の後も、非常勤としてご出講をお願いすることになっていたので、私の疑問（というより、日本をはさんで戦後のフランス、ドイツ哲学の対決と対話の可能性）をゆっくりお尋ねしたいと思っている。

久米先生の後任として、これまた高名なデカルト学者福居純先生をお迎えすることになっている。わが哲学は三代にわたり日本有数のフランス哲学研究者を擁することになるわけである。

【主な著述目録】

著 書

- 昭和五一年 三月 『文化と文明の哲学』 共著 学文社
- 昭和五三年 七月 『象徴の解釈学——ポール・リクール哲学の構成と展開』 単著 新曜社
- 昭和五五年一月 『吉本隆明をへ読む』 共著 現代企画室
- 昭和五七年 三月 『夢の解釈学』 単著 北斗出版
- 昭和五七年 九月 『記号を哲学する』 共著 勁草書房
- 昭和六〇年 五月 『精神病理学の新次元1』 共著 金剛出版
- 昭和六一年二月 『精神病理学の新次元2』 共著 金剛出版
- 昭和六一年六月 『記号・論理・メタファー』 共著 岩波書店
- 平成四年 四月 『隠喩論——思索と詩作のあいだ』 単著 思潮社

- 平成 四年二月 『宗教と社会科学』 共著
- 平成 四年一〇月 『ヨーロッパ精神とドイツ——出会いと変容』 共著
- 平成 五年 七月 『無意識の発見』 共著
- 平成 五年 七月 『キリスト教——その思想と歴史』 単著
- 平成 五年一月 『ユダヤ的 \wedge 知 \vee と現代』 共著
- 平成一〇年 三月 『現代フランス哲学』 単著
- 平成一〇年 四月 『夢と文学』 共著
- 平成一一年一〇月 『現代思想の最先端から見直す自己』 共著
- 平成一三年一月 『グノーシス 異端と現代』 共著
- 平成一四年 三月 『神話と歴史の間』 共著
- 平成一四年 五月 『記号学の逆襲』 共著

論 文

La Notion de péché chez les anciens Japonais, Essai d'interprétation du mythe japonais. 1967.

Faculté de Théologie Protestante, l'Université de Strasbourg.

- 昭和四八年 四月 「古代日本人における罪の観念——日本神話解釈の試み」 単著 『海』
- 昭和四八年 八月 「刑罰神話の解釈と古代法」 単著 『思想』
- 昭和五一年 五月 「フロイトとリクール——フロイトの哲学的解釈」 単著 『現代思想』
- 昭和五一年 九月 「ヴァレリーにおける夢の記号論」 単著 『現代詩手帖』
- 昭和五一年一〇月 「象徴の解釈学——ポール・リクール」 単著 『現代思想』
- 昭和五一年 四月 「ヴァレリーにおける睡眠下意識野探求」 単著 『ふらんす手帖』 5号

岩波書店

郁文堂

岩波書店

新曜社

東京書籍

新曜社

光琳社

将来世代総合研究所

岩波書店

岩波書店

東海大学出版会

中央公論社

岩波書店

青土社

思潮社

青土社

東京女子大学

- 昭和五三年 四月 「ピアジェと構造主義」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五四年 一月 「リクールにおけるプラトン」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五四年 三月 「小林秀雄と三木清」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五四年 八月 「テキストとは何か——解釈学の射程」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五四年 五月 「解釈学の課題と展開——テキスト理論を基軸として」 单著 『思想』 岩波書店
- 昭和五四年 九月 「言語の存在論への道——ハイデガーとリクール」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五五年 四月 「ヴァレリーにおける睡眠下の探求？」 单著 『ふらんす手帖』 9号 東京女子大学
- 昭和五五年 二月 「西欧精神にみる遠心性と求心性——ポーヴォワールとヴェーユの場合」 单著 『公明』 公明党機関誌局
- 昭和五五年 六月 「形式への意志」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五五年 一月 「神話の創造性」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五六年 三月 「現代フランス思想におけるニーチェ、マルクス、フロイト」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五六年 五月 「隠喩の創造性」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五六年 六月 「ローレンツとフロイト、または進化と退行」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五六年 七月 「無意識の言語的構造について」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五七年 一月 「精神分析と反省哲学」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五七年 五月 「意味の死と再生」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五七年 九月 「フロイトにおける言語と記号」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五八年 一月 「現代神話学の流れ」 单著 『現代思想』 青土社
- 昭和五八年 一月 「想像力をこそ——ポール・リクールの聖書解釈学」 单著 『福音と世界』 新教出版社
- 昭和五九年 四月 「隠喩と差異——デリダ、ハイデガー、リクール」 单著 『思想』 岩波書店
- 昭和五九年 七月 「神話と象徴」 单著 『人文科学研究』 国際基督教大学

昭和五九年	七月	「ことばの霊能力者イエス」 单著 『現代思想』	青土社
昭和五九年	八月	「テキストとしての林達夫」 单著 『現代思想』	青土社
昭和五九年	九月	「なぜ今テキストか」 单著 『言語生活』	大修館
昭和五九年	九月	「復活信仰と祖霊信仰」 单著 『現代思想』	青土社
昭和五九年	十一月	「イエスの漂泊」 单著 『現代思想』	青土社
昭和五九年	十二月	「解釈科学としての精神分析」 单著 『歴史と社会』	リブポート
昭和六〇年	三月	「生活的論理と象徴的論理——谷泰『聖書世界の構成論理』 单著 『思想』	岩波書店
昭和六〇年	九月	「準物語テキストとしての神話・夢・幻想」 单著 『思想』	岩波書店
昭和六一年	一月	「いま、レトリックとは何か」 单著 『国文学』	学燈社
昭和六一年	一月	「ポール・リクール、意味創造の哲学」 单著 『フランス』	白水社
昭和六一年	四月	「ミメーシスの二つの型、またはミメーシスの循環」 单著 『記号学研究』 6号	北斗出版
昭和六一年	九月	「エリアードにおけるミュトスの探求」 单著 『ユリイカ』	青土社
昭和六二年	一月	「太宰治の虚構と病理——一人称告白体の発見」 单著 『国文学』	学燈社
昭和六二年	二月	「信仰共同体におけるイデオロギーとユートピアの弁証法」 单著 『現代思想』	青土社
昭和六三年	七月	「テキストの声と聴き手」 单著 『記号学研究』 8号	東海大学出版会
平成二年	一〇月	「現代フランス哲学における解釈学の状態と問題点」 单著 『理想』 645号	理想社
平成二年	二月	「隠喩をとりまく言語的状况」 单著 『現代詩手帖』	思潮社
平成二年	三月	「記号としての言語」 单著 『現代詩手帖』	思潮社
平成二年	四月	「ロゴス中心主義の脱構築——デリダからハイデガーへ」 单著 『現代詩手帖』	思潮社
平成二年	五月	「言葉と存在」 单著 『現代詩手帖』	思潮社
平成二年	七月	「存在の類比と隠喩」 单著 『現代詩手帖』	思潮社

- 平成 二年 八月 「存在の彼方」 单著 『現代詩手帖』 思潮社
- 平成 二年 九月 「隠喩における△類似▽の論理」 单著 『現代詩手帖』 思潮社
- 平成 二年一〇月 「△並置▽としての換喩の論理」 单著 『現代詩手帖』 思潮社
- 平成 二年十一月 「隠喩における二つの顔」 单著 『現代詩手帖』 思潮社
- 平成 三年 二月 「言語的創造としての隠喩」 单著 『現代詩手帖』 思潮社
- 平成 三年 六月 「書くことと読むことのアいだ——『文学とは何か』再読」 单著 『いま、サルトル』 思潮社
- 平成 四年 一月 「いま、なぜユダヤか」 单著 『現代思想』 青土社
- 平成 四年 二月 「反グノーシス的グノーシスとしての原罪概念」 单著 『現代思想』 青土社
- 平成 四年 四月 「情報と類像における身体性」 单著 『記号学研究』 12号 東海大学出版会
- 平成 四年十一月 「P・リクール『時間と物語』における
△歴史学と物語論と現象学の三者会談▽について」 单著 『現象学年報』 8号 南山大学 思潮社
- 平成 四年十一月 「詩学は哲学を批判できるか——メシヨニックをめぐる」 单著 『現代詩手帖』 思潮社
- 平成 四年十二月 「癒しの言葉とその構造」 单著 『日本学』 20号 名著刊行会
- 平成 五年 四月 「開かれた記号学をめざして」 单著 『記号学研究』 13号 東海大学出版会
- 平成 六年 四月 「言語中心主義から言語相対主義へ」 单著 『記号学研究』 14号 東海大学出版会
- 平成 七年 五月 「記号発生力学」 单著 『記号学研究』 15号 東海大学出版会
- 平成 八年 四月 「非意味のありか」 单著 『記号学研究』 16号 東海大学出版会
- 平成 八年十一月 「△傷ついたコギト▽から自己の解釈学へ」 单著 『思想』 岩波書店
- 平成 八年十二月 「問われている宗教」 单著 『大学キリスト者紀要』 大学キリスト者の会
- 平成 九年 三月 「△等価の論理▽と△満ち溢れの論理▽」 单著 『立正大学文学部紀要』 13号 立正大学
- 平成 九年 四月 「△選ばれた者の尊厳▽をめぐる——レヴィナスとリクール」 单著 『思想』 岩波書店

- | | | |
|------------|---|----------|
| 平成 九年一月 | 「イエスの言葉のレトリック」 单著 『月間言語』 | 大修館 |
| 平成 一一年 二月 | 「芸術記号論への第一歩」 单著 『記号学研究』 20号 | 東海大学出版会 |
| 平成 一一年 九月 | 「歴史叙述と物語」 单著 『フランス哲学・思想研究』 4号 | 日仏哲学会 |
| 平成 一二年 三月 | 「対話的人間とその言語学的基础づけ」 单著 『立正大学大学院紀要』 16号 | 立正大学 |
| 平成 一二年 三月 | 「現代フランスにおける二つの他者論——レヴィナスとリクール」 单著 | 立正大学 |
| 平成 一二年 二月 | 『立正大学人文科学研究所年報』 別冊13号 | 立正大学 |
| 平成 一三年 三月 | 「プロテスタント哲学者ポール・リクール」 单著 『共助』 | キリスト教共助会 |
| 平成 一四年 九月 | 「言語の神話と神話の言語——アダムの言語をめぐる」 单著 『立正大学文学部紀要』 17号 | 立正大学 |
| | 「ハンス・ヨナスの未来倫理——生命原理から責任原理へ」 单著 『立正大学文学部論叢』 116号 | 立正大学 |
| 翻 訳 | | |
| 昭和 三九年 八月 | マルセル・シモン著 『原始キリスト教』 单訳 | 白水社 |
| 昭和 四七年 六月 | J・ピアジェ、B・インヘルダー著 『記憶と知能』 共訳 | 国土社 |
| 昭和 四九年 二月 | ミルチャ・エリアーデ著 『宗教学概論1』 单訳 | せりか書房 |
| 昭和 四九年 九月 | ミルチャ・エリアーデ著 『宗教学概論2』 单訳 | せりか書房 |
| 昭和 四九年 二月 | ミルチャ・エリアーデ著 『宗教学概論3』 单訳 | せりか書房 |
| 昭和 五〇年 二月 | ウラジミール・ジャンケレヴィッチ著 『イロニーの精神』 单訳 | 紀伊国屋書店 |
| 昭和 五〇年 九月 | ミシェル・フーコー著 『ピエール・リヴィエールの犯罪』 共訳 | 河出書房新社 |
| 昭和 五〇年 一〇月 | J・ピアジェ、B・インヘルダー著 『心像の発達心理学』 共訳 | 国土社 |
| 昭和 五一年 一月 | デイヴィッド・バカン著 『ユダヤ神秘思想とフロイド』 共訳 | 紀伊国屋書店 |
| 昭和 五一年 六月 | ルネ・ミシヤ著 『散文の効力』 单訳 | せりか書房 |

- 昭和五一年 九月 カール・バルト著『教会の信仰告白』 単訳 新教出版社
- 昭和五二年 九月 R・バルト、他著『構造主義と聖書解釈』 共訳 ヨルダン社
- 昭和五三年 七月 D・M・ラスマッセン著『象徴と解釈』 単訳 紀伊国屋書店
- 昭和五三年一〇月 ポール・リクール著「自由の現象学」 単訳 青土社
- 昭和五三年 一月 ポール・リクール著「哲学と言語」 単訳 岩波書店
- 昭和五四年 五月 ジュリア・クリステヴァ著「述語機能と語る主体」 単訳 青土社
- 昭和五七年 三月 ポール・リクール著『フロイトを読む』 単訳 新曜社
- 昭和五八年 五月 ジュリア・クリステヴァ著「聖書を読む」 単訳 青土社
- 昭和五九年一二月 セルジュ・モスコヴィシ著『自然と社会のエコロジー』 共訳 法政大学出版局
- 昭和五九年 四月 ポール・リクール著『生きた隠喩』 単訳 岩波書店
- 昭和六〇年 九月 ポール・リクール著『解釈の革新』 共訳 白水社
- 昭和六〇年 一月 ジョルジュ・ギュスドルフ著『神話と形而上学』 単訳 せりか書房
- 昭和六〇年 一月 ジュリア・クリステヴァ著「愛を病む者たち」 単訳 新評論
- 昭和六一年 五月 ロジェ・カイヨワ著『神話と人間』 単訳 せりか書房
- 昭和六一年 二月 ポール・リクール著「信じることをめぐる問題群」 単訳 青土社
- 昭和六一年 二月 R・S・ステイール著『フロイトとユング』上 共訳 紀伊国屋書店
- 昭和六一年 五月 R・S・ステイール著『フロイトとユング』下 共訳 紀伊国屋書店
- 昭和六二年一月 ポール・リクール著『時間と物語Ⅰ』 単訳 新曜社
- 昭和六二年 六月 ミルチャ・エリアーデ著「十九・二十世紀における神話」 単訳 平凡社
- 昭和六三年 六月 ポール・リクール著『時間と物語Ⅱ』 単訳 新曜社
- 平成二年 三月 ポール・リクール著『時間と物語Ⅲ』 単訳 新曜社

- | | | | |
|------------|-----------------------------------|----|---------|
| 平成 二年 二月 | ミルチャ・エリアーデ著「創造者とその影」 | 単訳 | 平凡社 |
| 平成 三年 二月 | ミルチャ・エリアーデ著「内なる光の意味」 | 単訳 | 平凡社 |
| 平成 三年 一〇月 | ジルベール・デュラン著「西洋における哲学的歪曲と伝統的人間像」 | 単訳 | 平凡社 |
| 平成 七年 三月 | ポール・リクール著『リクール聖書解釈学』 | 共訳 | ヨルダン社 |
| 平成 八年 四月 | ポール・リクール著『他者のような自己自身』 | 単訳 | 法政大学出版局 |
| 平成 一〇年 一〇月 | ポール・リクール著「形而上学から道徳学へ」 | 単訳 | 岩波書店 |
| 平成 一二年 一〇月 | オリヴィエ・モンジャン著『ポール・リクールの哲学——行動の存在論』 | 単訳 | 新曜社 |